

| 授業科目名         | 教育心理学   |  | 担当教員名     | 石上 浩美                  |
|---------------|---|--|-----------|------------------------|
| 必修/選択         | 必修(幼稚園教諭2種免許/保育士資格)   |  | 開講学年・学期   | 1年 前期 (年間開講数 1講座)      |
| 科目区分          | 教職・保育に関する科目   |  | 単位数       | 2単位                    |
| 施行規則に定める科目区分等 | 教育の基礎理解に関する科目-幼児の心身の発達及び学習の過程<br>保育の対象の理解に関する科目(別表1)  |  | 授業方法/担当形態 | 講義 / 単独                |
|               |   |  | 特記事項      | ※「子ども家庭支援の心理学」の指導内容を含む |
| 授業の到達目標       | <p>1-幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程</p> <p>(1)幼児、児童及び生徒の心身の発達過程：幼児、児童及び生徒の心身の発達過程及び特徴を理解する。</p> <p>①幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。</p> <p>②乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。</p> <p>(2)幼児、児童及び生徒の学習の過程：幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p> <p>①様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。</p> <p>②主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。</p> <p>③幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。</p> <p>2-子ども家庭支援の心理学</p> <p>(1)生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。</p> <p>(2)家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。</p> <p>(3)子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。</p> <p>(4)子どもの精神保健とその課題について理解する</p> |  |           |                        |
| 授業の概要         | <p>教育心理学とは、「保育・教育現場に役立つための心理学的な知見とアプローチ」について考えるための学問である。それは、保育士・教員として現場に立った時に役立つ実践的な理論であるとともに、いつかどこかで子どもと関わり育む状況になった時にも活用可能なものであってほしいと考える。</p> <p>教育心理学が取り扱う主な内容は、発達・学習・人格・適応・評価である。この講義では、協同学習の理念と手法に基づいた問題解決型の学習展開を目指している。たとえば、「いじめのない学級」を作るためには、どのような指導ができそうなのか、話し合い活動(LTD: Learning Through Discussion)を通して、具体的な解決方法を探究する。このような手法にも興味・関心を持ち、積極的に授業に参加することを期待している。</p>   |  |           |                        |
| テキスト          | 「教育心理学-保育・学校現場をよりよくするために-」石上浩美・矢野正編著(嵯峨野書院, 2016) ISBN 978-4-7823-0559-1  |  |           |                        |
| 参考書・参考資料等     | <p>「精選コンパクト心理学-教師になる人のために-」北尾倫理他(北大路書房,2006)、「教育心理学」安藤寿・康鹿毛雅治編(慶應大学出版会,2013)、石上浩美・矢野正(編著)(2017)「保育と言葉第2版」(嵯峨野書院,2017)、「保育実践に生かす障がい児の理解と支援改訂版」小川圭子・矢野正編著(嵯峨野書院,2017)</p> <p>※非常に多数の文献・資料があるため、講義内で適宜紹介する。</p>  |  |           |                        |
| 成績評価の方法       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標標準評価</li> <li>・授業参加姿勢(コメントカード記入内容20%・中間レポート:30%)</li> <li>・期末到達度確認テスト:50%</li> </ul>  |  |           |                        |
| 授業計画          | 授業の内容   |  |           | 到達目標番号                 |
| 第1回           | オリエンテーション: 履修上の諸注意、評価方法・基準の説明、教育心理学の成り立ちと発達上の課題   |  |           | (1)-①                  |
| 第2回           | 教育心理学の研究手法: 実証科学としての心理学、学校教育における課題、乳児期の身体・認知発達  |  |           | (1)-①,(2)-③            |
| 第3回           | 幼児期の発達: 身体・言語・道徳性・社会性; ピアジェ、コールバーグ、ヴィゴツキーなど   |  |           | (1)-①②,(2)-③           |
| 第4回           | 児童期・青年期の発達: 仲間集団・自我同一性の確立を中心に(エリクソンなど)  |  |           | (1)-②                  |
| 第5回           | 学習のプロセス: 学習の意味と動機づけ(オペラント条件づけ、アンダーマイニング効果、観察学習)   |  |           | (2)-①                  |
| 第6回           | 学習方略: 学習指導の方法(学習形態、個に応じた指導方法、ATI、協同学習)  |  |           | (1)-①,(2)-①            |
| 第7回           | 人格の形成: 人格の三層、パーソナリティの発達、対人関係形成の発達・学習との関係  |  |           | (1)-②,(2)-②            |
| 第8回           | 適応と不適応: 学校内臨床課題、心身の健康への理解と学習指導、生活指導・生徒指導・教育相談(生徒指導提要、キャリア発達・教育的支援)、学校で活用できる心理アセスメント、測定法(知能検査、エングラム、YG性格検査、PFスタディ、描画法など)   |  |           | (2)-①,(2)-②            |
| 第9回           | 障がいを持つ生徒の理解と指導(盲・聾、知的障害、肢体不自由、LD、ADHD、高機能自閉症など広汎性発達障害などへの理解と合理的配慮)  |  |           | (1)-②,(2)-③            |
| 第10回          | 教育評価・授業評価: 目標標準評価・集団標準評価、評価の時期と主体、評価と学習効果、ブルームの評価理論   |  |           | (1)-②                  |
| 第11回          | 保育士・教員の養成・採用・研修: これからの時代に求められる保育士・教員の養成・採用・研修のありかたについて  |  |           | (2)-③                  |
| 第12回          | 子どもを取りまく現状と課題Ⅰ(幼稚園・保育園・認定こども園・小学校の現場から): ささまざまな子育て支援のありかたについて、虐待、いじめ、不登校など  |  |           | (1)-②                  |
| 第13回          | 子どもを取りまく現状と課題Ⅱ(中・高等学校の現場から): ネットいじめ・学級崩壊・体罰・学校安全など  |  |           | (1)-②                  |

| 授業計画 | 授業の内容  | 到達目標番号      |
|------|--|-------------|
| 第14回 | 子どもを取りまく現状と課題Ⅱ（ICTの普及による現場環境の変化から）：ICT、SNSなどに対する情報リテラシーと倫理など | (1)-②,(2)-③ |
| 第15回 | 教育心理学第1回から第14回まとめ  | (1)-①,(2)-① |
| 定期試験 | 筆記試験   |             |